

農繁期 レポート

令和7年 6月号

バードライフファーム

オーナー	バードライフ
産地	鳥取県日野郡日南町
水田面積	22.5アール
保証量	玄米1,013kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 ノータス研究所株式会社

6月に入り、梅雨の季節となりましたが、月の後半には真夏日が続くなど、水不足が心配される今日このごろです。

苗は順調に育っておりますが、同時に田んぼ内外の雑草も勢いを増しており、除草作業に苦戦しております。このほかにも、害獣対策として電気柵の設置や、肥料の散布作業など、多くの作業が重なる一年で最も忙しい時期を迎えています。これらは、苗がしっかりと稲へと育っていくために欠かせない大切な工程です。

オーナーの皆様喜んでいただけるよう、引き続き生産部一同力を合わせて頑張っておりま

すので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

6月の作業内容等

1. 中干し(水管理作業)

稲の分けつ(一本の株から複数の茎が出る現象)が進んだ後、過剰な分けつを防ぐため、一時的に田んぼの水を抜きます。分けつが多いと栄養が分散し、収量や品質に影響します。この作業は、有害ガス(硫化水素・メタン)の発生を抑え、酸素を送り、根の活力を高めます。



適度に分けつした状態

2. 除草作業

水田周辺の草刈りも重要です。ヒエなどの雑草が繁茂する畦畔は、稲を食害するカメムシの発生源となるため、周辺の圃場にも迷惑をかけかねません。そのため、定期的に草刈りに動しむ必要があります。



手押し式の刈払機

3. 害獣対策

農業において、害獣対策は重要です。令和5年の稲の全国での被害額は、イノシシが約17億円、シカが約11億円と、毎年深刻な被害があります。写真は、侵入防止用の電気柵です。電気柵は再利用できないので、毎年設置します。



侵入防止の電気柵設置作業

4. 多様な生態系

農作物に被害をもたらす動植物が存在する一方で、ネズミなどの害獣を餌とするキツネのような動物も暮らしています。また、土壌中には、栄養を分解して農作物の成長を助ける昆虫なども多く生息しており、多様な生き物が互いに影響し合いながら、ひとつの生態系を形づくっています。



キツネの赤ちゃん